



令和6（2024）年度版

観音寺市の環境

「令和5（2023）年度報告」

観音寺市



目次

1 観音寺市環境基本計画について 1

(1) 観音寺市環境基本計画とは 1

(2) 観音寺市環境基本計画の概要 1

2 観音寺市環境基本計画の進捗状況について 4

(1) 重点戦略1（かんおんじの水とみどりをまもりそだてる）について . . . 4

(2) 重点戦略2（かんおんじの空をまもりそだてる）について 8

(3) 重点戦略3（かんおんじの人をまもりそだてる）について 13

1 観音寺市環境基本計画について

(1) 観音寺市環境基本計画とは

観音寺市は、市の環境の保全と創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進のため、2019年3月に「第2次観音寺市環境基本計画」(以下、「2次計画」という。)を策定しました。

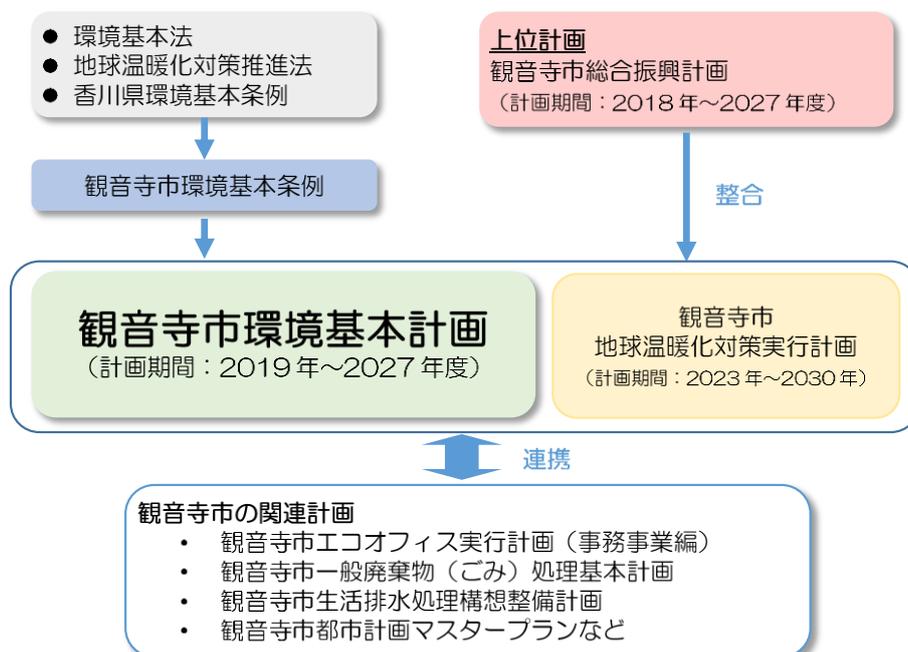
2次計画においては、5つの分野(「気候変動を緩和し、適応するまちづくり」、「資源を大切に
する循環型まちづくり」、「豊かな自然と共生するまちづくり」、「安全・安心で快適に暮らせる
まちづくり」)ごとに施策を設定し、環境保全の各種取組を推進してきました。さらに、関連する分
野において総合的に取り組んでいくための3つの重点戦略(「かんおんじの水とみどりをまもりそ
だてる」、「かんおんじの空をまもりそだてる」、「かんおんじの人をまもりそだてる」)を選定し、
市の環境・経済・社会の向上に一体的に取り組みました。

第2次計画の策定以降、世界や国において2050年カーボンニュートラルの実現に向けた枠組み
の整備が急速に進んでおり、本市においても2022年3月に2050年までに市域の温室効果ガス(二
酸化炭素)排出量を実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。こ
の実現に向けて、市民・事業者・行政が一体となって取組を行っていく必要があります。

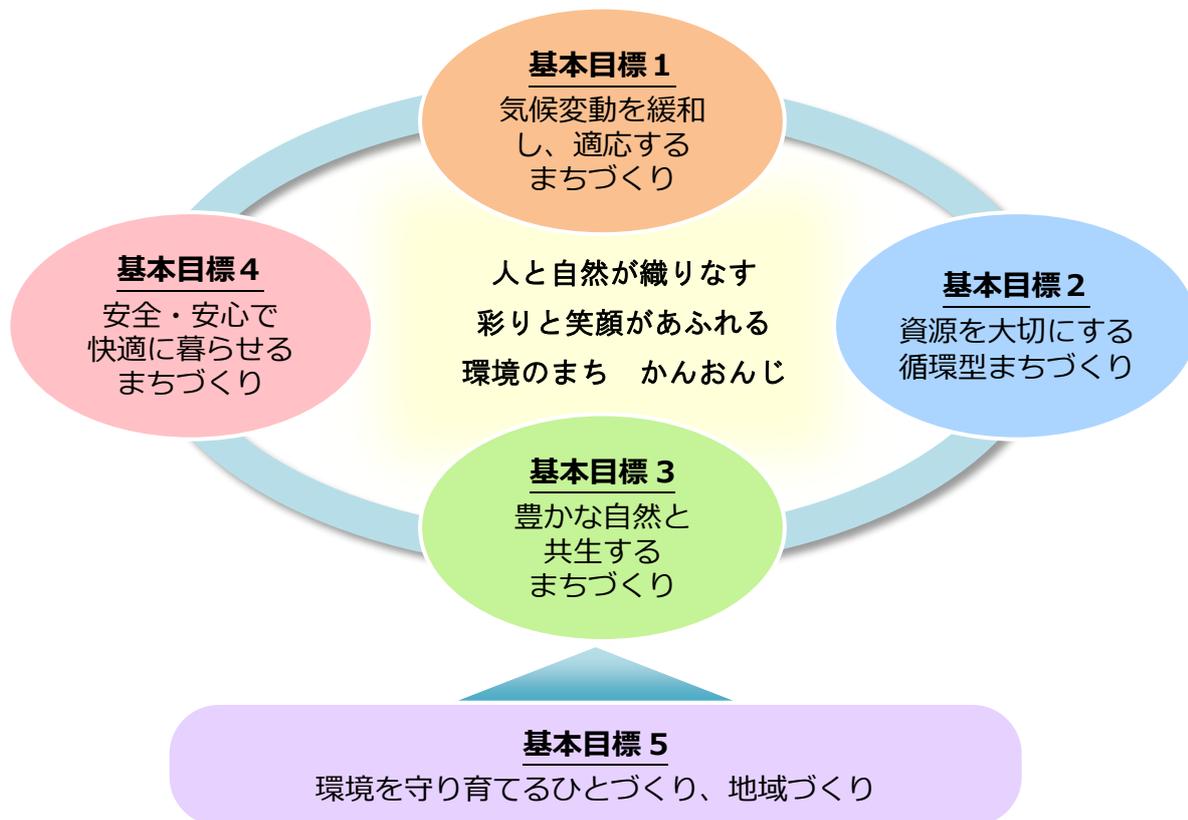
以上のことから、2次計画における取組成果と課題を踏まえるとともに、昨今の環境行政を取
り巻く状況の変化に対応するため、2023年3月に「第2次観音寺市環境基本計画」を改訂しまし
た。その改訂に合わせて、2次計画における基本目標の一つである「気候変動を緩和し、適応す
るまちづくり」に掲げる地球温暖化対策に関する施策の充実と着実な進行管理を行うため、新た
に「観音寺市地球温暖化対策実行計画」(以下、「実行計画」という。)を策定しました。

(2) 第2次観音寺市環境基本計画の概要

計画の位置づけ



人と自然が織りなす 彩りと笑顔があふれる 環境のまち かんおんじ



基本目標 1
気候変動を緩和し、
適応するまちづくり

エネルギーを有効に利用し、気候変動*に適応できるまちをめざします。

基本目標 2
資源を大切にする
循環型まちづくり

3Rの取組に根ざした、資源と水が循環するまちの構築をめざします。

基本目標 3
豊かな自然と
共生するまちづくり

本市が誇る様々な自然資源の保全を図り、多様な生きものと共生できる、自然豊かなまちをめざします。

基本目標 4
安全・安心で快適に
暮らせるまちづくり

公害などを防止し、健康・快適・安全な生活環境が確保されたまちをめざします。

基本目標 5
環境を守り育てる
ひとづくり、地域づくり

一人ひとりが環境について考え、自発的に行動し、それらの取組が核となり市民や地域全体に広がるまちをめざします。

- 重点戦略1 かんおんじの水とみどりをまもりそだてる
- 重点戦略2 かんおんじの空をまもりそだてる
- 重点戦略3 かんおんじの人をまもりそだてる

2 計画の進捗状況について

本報告書は、観音寺市環境基本条例第9条及び地球温暖化対策の推進に関する法律第21条第15項に基づき、計画の進捗状況を毎年度公表しているものです。

2-1 観音寺市環境基本計画の進捗状況について

(1) 重点戦略1（かんおんじの水とみどりをまもりそだてる）について

【達成目標を実現するための活動目標】

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
水質環境基準達成率				
河川 BOD	86% (6地点/7地点)	86% (6地点/7地点)	100%	
海域 COD	14% (1地点/7地点)	0% (0地点/7地点)	100%	
現況と対策	<p>市沿岸海域である筵灘は閉鎖性水域に該当し、潮流が弱いため停滞性が強く、汚濁物質がたまりやすい傾向がある。そのため、海域の環境基準達成状況は低い状況が続いている。</p> <p>海域の汚濁物質は主に生活排水や産業排水から流入しており、工場・事業場の排水規制に合わせて、生活排水対策を進めていく必要があり、公共下水道や合併処理浄化槽の普及に取り組んでいる。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 県と市が河川 16 地点（うち 7 地点は環境基準点）、海域 15 地点（うち 7 地点は環境基準点）の水質測定による調査・監視を実施した。 2 市内で水質汚濁事案（油や有機物の流出）が 5 件発生し、関係機関と連携し発生源の特定や周辺環境への影響など確認を行った（うち、2 件の発生源は未特定）。 3 市民を対象としたイベントや講座などを計画し、水環境に対する理解促進に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・わくわく体験教室（ウミホテル観察会）（8月） 22 人 ・県主催「ウミホテル観察会」（8月）（参加者 29 人） 			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 公共用水域の水質汚濁について、継続して代表地点での水質測定を実施する。水質異常が確認された場合は、香川県と連携して発生源への指導を行う。 2 市民の水環境に対する理解をさらに深めるため、引き続き香川県と連携して、水環境の保全をテーマとしたイベントを開催する。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
汚水処理人口普及率	63.8%	66.6%	69.8%	
現況と対策	<p>本市の良好な水環境を保全するため、主な水質汚濁の原因となっている生活排水や産業排水へ対策が重要である。</p> <p>汚水処理人口普及率は、公共下水道や農業集落排水、合併処理浄化槽の普及状況を示す指標である。観音寺市では、公共下水道や合併処理浄化槽の普及・啓発を行い、汚水処理人口普及率は増加傾向にある。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 合併処理浄化槽の新規設置者や単独処理浄化槽・汲取りトイレから合併処理浄化槽へ転換する方に対して、広報紙やホームページに補助金制度を掲載し、浄化槽処理促進区域内の設置推進や啓発活動を実施した。(2023年度補助金交付件数：141件(うち転換件数：24件)) 公共下水道事業認可区域内の供用開始3年以内の住民を中心に、下水道への接続を啓発するため、戸別訪問を実施した。補助金制度により設置した合併処理浄化槽のうち定期検査の未受検者に対して、文書や戸別訪問により指導した。 			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 単独処理浄化槽や汲取りトイレから合併処理浄化槽への転換に対する補助制度を継続し、合併処理浄化槽の設置を推進する。 下水道管渠の整備工事を進めるとともに、下水道未接続世帯に対しては戸別訪問を行って早期接続を推進する。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
海岸・河川清掃参加人数	430人	4,175人	5,000人	
現況と対策	<p>環境保全の取組を波及させるためには、一人ひとりの実践を市民や事業者、行政など、各主体が連携・協働する必要がある。各主体の連携を強化するため、観音寺市では環境保全活動を支援するとともに、イベントの開催などに取り組んでいる。</p>			
進捗状況	<p>県又は市が主催する海岸・河川清掃を実施するとともに、清掃活動を行う市民や団体に対して、ごみ袋の支給や回収ごみの処分を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海ごみゼロウィーク(5月) 海岸・河川一斉清掃(7月・2月) (参加者3095人) 3000万人瀬戸内海クリーン大作戦(6～8月) 829人 さぬき瀬戸クリーンリレー(9～10月) 162人 海ごみクリーン作戦「さぬ☆キラ」(10～11月) 89人 エコ・アダプトロード 44団体 			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 清掃活動を実施する団体に対して、ごみ袋の支給や回収ごみの処分など継続的な支援を実施する。 効率的なごみの回収につなげるため、ホームページ等で活動実績の情報提供に努める。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
学校給食における地産地消比率 ※香川県内で生産された農産物・水産物等	59.8%	60.6%	60.0%	
現況と対策	<p>本市は瀬戸内の豊かな海に面し、「いりこ」や「かまぼこ」など豊富な水産資源を活用した産業が発展している。また、温暖な気候と優れた土地条件に恵まれた地域特性を活かし農業の振興を図っている。</p> <p>学校給食における地場産物の活用は地産地消の有効な手段であり、地場産物の消費による食材の輸送に伴う環境負荷の低減や地域の活性化は持続可能な食の実現につながる取組である。</p>			
進捗状況	<p>毎月19日の「食育の日」を含む5日間を「ふるさと再発見週間」と定め、地場産物や季節の郷土料理を取り入れた給食の提供に努めた。</p> <p>また、令和5年度より「観音寺地産地消給食の日（かんおんじデー）」を学期に1回設け、市の補助金を活用し地元食材を盛り込んだ給食を提供した。</p>			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 地場産物の使用を推進する献立作りに努める。 2 「かんおんじデー」の実施、学校給食展や広報紙等を通じて郷土料理や旬の野菜を使った給食を紹介し、広く地産地消の取り組みを推進する。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
水道の1日1人当たり平均使用量	328L/人・日	335L/人・日	319L/人・日	
現況と対策	<p>本市は降水量が少ないという特徴があり、昔から水を大事に使う意識が根付いている。人と自然が共生する水環境を保全するためには、節水意識を通じて、市民一人ひとりが里地・里山の保全について重要性を認識する必要がある。</p>			
進捗状況	<p>節水に関する認識を深めるため、庁内において節水チャレンジを実施した。（参加者数（市職員対象）：224人）</p>			
今後の取組	<p>節水型街づくり推進協議会が8月に実施する「節水ウィーク（節水チャレンジ）」について、市職員の参加率向上に努めるとともに、市民への参加を呼びかける。</p>			

指標	基準値 (2021 年度)	現状値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)	評価
森林整備面積 (国有林を含む)	12 ha	53 ha	70 ha	
現況と対策	<p>森林は、これまでの健全な水循環や生物多様性の確保に加えて、地球温暖化防止に向けた二酸化炭素の吸収源としても期待されている。</p> <p>今後は、森林の適切な整備や保全を通じて、二酸化炭素の吸収量を確保するとともに、木材利用の拡大に向けた取組を推進する必要がある。</p>			
進捗状況	<p>森林環境を保全するため、林道橋の長寿命化工事を順次実施している。また、伐採後の国有林については、順次造林作業が進められている。</p>			
今後の取組	<p>2024 年度も引き続き、林道改良工事等を実施するとともに、森林所有者の意向に基づいた森林経営計画の策定を行う林業を営む者に対し、必要な支援を行う。</p>			

(2) 重点戦略2 (かんおんじの空をまもりそだてる) について

【達成目標を実現するための活動目標】

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
家庭系一般廃棄物の 1人1日あたりの排 出量(し尿を除く)	635g/人日	610g/人日	616g/人日	
現況と対策	<p>資源を無駄なく有効に利用する循環型社会の構築は、持続可能な社会の形成に向けた基盤となる重要な取組である。循環型社会の構築に向けて、市民や事業者にごみの3Rへの取組を啓発するなど、ごみ減量化に対する理解を深める必要がある。</p> <p>観音寺市では、家庭から排出されるごみの1人1日あたりの排出量は減少している。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 各地区の衛生組合が取り組むごみの減量化に対して、補助金を交付した。 生ごみ処理機購入補助を実施した。(補助件数 42 件) 市民を対象にごみ減量化について啓発した。 <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理フォーラム(8月) 120人 ・ごみの分別に関する出前講座の実施(2回, 70人) ・広報紙により啓発(12回) 			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 各地区の衛生組合や生ごみの減量化に取り組む市民に対して、引き続き支援を行い、ごみの減量化を推進する。 家庭ごみの減量化に向けて、ホームページや広報紙により水切りの徹底や食品ロスの削減について市民に啓発する。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
一般廃棄物の再資源 化率	25.9%	25.8%	28.0%	
現況と対策	<p>ごみの減量化や再使用を進めてもなお残るごみについては、適正な分別を促進するとともに、地域主体のリサイクル回収など、資源の循環利用を進める必要がある。</p> <p>観音寺市の一般廃棄物の再資源化率は、2020年度以降横ばいに推移しており、ごみの再資源化率の向上を目指し、新たな取組を検討する必要がある。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> PTA組織が行う集団回収について、回収量に応じて補助金を交付した。(回収量 456 トン) 市民を対象にした出前講座を実施し、ごみ分別について啓発した(詳細は、「家庭系一般廃棄物の1人1日あたりの排出量(し尿を除く)」のとおり)。 			

今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き、市民にごみの方々の分別の徹底を呼びかけるとともに、出前講座により、分別方法の周知に努める。 2022年4月に施行されるプラスチック資源循環促進法について情報収集し、プラスチックごみの分別収集について検討する。
-------	--

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
環境基準超過時間等				
光化学オキシダント	503時間	561時間	改善を図る	
微小粒子状物質 (PM2.5)	1日	0日	改善を図る	
現況と対策	<p>本市では、微小粒子状物質（PM2.5）の測定を開始した2012年以降、環境基準値を上回る状況が続き、2018年度には観音寺市役所局が全国の年平均値が一番高い測定局となったが、それ以降徐々に改善し、2022年度以降環境基準値を下回る状況となっている。</p> <p>一方、光化学オキシダントについては、測定開始以降、環境基準値を上回る状況が続いており、早急な対策が求められている。</p> <p>光化学オキシダントの発生原因は多岐にわたる上、市外の影響を受けることから、香川県と連携して発生源の特定など情報収集に努めるとともに、発生源の一つとして挙げられている野焼きに対する対策を実施している。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 県が市内1地点（観音寺市役所）にて常時監視による調査・監視を実施した。 野焼き対策を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 市民や事業者に対して野焼き禁止について広報紙で啓発（9月） 野焼き多発地域や野焼き相談のあった自治会に野焼き禁止チラシを回覧するよう依頼 市民から野焼きの相談があった場合は、行為者に対して啓発や指導を行うとともに、違法な野焼きに対しては香川県や警察と連携して行為者に指導を実施 			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き、野焼き発生マップにより野焼きの多発地域を把握し、野焼きが多くなる時期にあわせて重点的な啓発を行う。 市民から野焼きの苦情があった場合は、行為者へ指導する。また、違反行為や周辺住民への影響が大きいと認められる行為者に対しては、指導票による文書指導を行う。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
悪臭苦情件数	38件	32件	減少	
現況と対策	<p>観音寺市における2023年度の悪臭苦情は、工場・事業場が原因となった事案が4件、野焼きが原因となった事案が28件であり、野焼きに起因したものが大半を占めている。</p> <p>近年、住宅地の拡大等に伴い農業地域に家を建てるケースが増えており、野焼きに起因した悪臭苦情は住宅密集地域から農業地域へと拡大している。そのため、農業従事者には野焼きの例外である農地で行う野焼きであっても、極力近隣住民に配慮した方法で行うよう指導・啓発している。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 野焼きに対する対策を実施した（詳細は、「環境基準超過時間等（光化学オキシダント・PM2.5）」のとおり）。 市民から悪臭の相談があった場合は、悪臭の発生源を特定し、必要に応じて関係機関と連携して指導を行った。（1件） 			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き、野焼き対策を実施する。（詳細は、「環境基準超過時間等（光化学オキシダント・PM2.5）」のとおり） 悪臭発生施設の実態調査を実施し、悪臭の未然防止に努める。規制基準値を超過する恐れがある場合は、悪臭防止法に基づき立入検査を行い、関係機関と連携して適切な指導を行う。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
のりあいバス利用者数	150人/日	166人/日	250人/日	
現況と対策	<p>公共交通機関の利用は、大気環境の保全につながるとともに地球温暖化対策にも貢献するため、公共交通機関や自転車の利用環境を整備し、自動車からの利用転換を促進する必要がある。</p> <p>本市では、交通が不便な地域の住民や高齢者等の外出機会の促進や福祉の増進を図るため、のりあいバスを運行している。2017年4月には、市民の集約拠点を効率よく結ぶため路線を全面的に見直した結果、バス利用者が増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度以降は利用者数が減少傾向にある。令和6年度より、五郷地区において事前予約・便制で運行するのりあいタクシーの実証実験を進める予定であり、利用者の利便性向上や運行の効率化を図る。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 分かりやすいのりあいバスマップを作成し、配布した。 ホームページに時刻表や運行ルートに掲載した。 スマートフォンのGPS機能を利用し、のりあいバスの現在位置を把握できる環境を構築し、利用者の利便性を向上した。 持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、市地域公共交通計画を策定した。 			

今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 市地域公共交通計画に基づき、市民の公共交通の利用を促進する。 2 のりあいバス利用者数の増加を図るため、市民に対してバスの乗り方や活用方法を周知するなど、利便性の向上を図る。また、市の公式ラインなどで運行に関する情報を配信する。
-------	---

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
市域のエネルギー起源 CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比)	35.0% (2018年度)	42.8% (2021年度)	43.6%	
市域のエネルギー消費削減率 (2013年度比)	26.3% (2018年度)	35.6% (2021年度)	31.5%	
居住誘導区域内人口の総人口に占める割合	20.4% (2015年度)	19.6% (2020年度)	21.6%	
太陽光発電システム導入容量 (累積)	67,765 kW	70,160kW	149,500 kW	
ZEH (新築) 購入支援補助件数	0 件	2 件	30 件	
現況と対策	<p>地球温暖化の防止に向けて、温室効果ガス排出量のうち大半を占めているエネルギー使用に起因した CO₂ (以下、エネルギー起源 CO₂ という) の排出を抑制することが必要不可欠である。</p> <p>本市のエネルギー起源 CO₂ 排出量は、産業部門 (製造業) が 57.2% と最も多く、次いで運輸部門 (自動車) が 18.9%、家庭部門が 13.8%、業務部門が 10.1% となっている。</p> <p>各部門において、省エネルギー設備や ZEH・ZEB の導入など省エネルギー対策・電化を進めるとともに、太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用を推進することにより、2050 年までに市域のエネルギー起源 CO₂ 排出量を実質ゼロにすることを目指す必要がある。</p> <p>また、都市計画道路をはじめとする道路整備については、居住誘導区域内の歩行空間の整備や狭あい部の解消、道路の美装化等を重点化し、快適性の向上や利便性・安全性の確保により、区域の優位性を高める必要がある。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 省エネ性能の高い ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) や V2H、太陽光発電設備、蓄電池を新築又は購入する市民に対して、設置費用の一部を補助した。(94 件) 2 市民や事業者の省エネルギー行動を促進するため、省エネに関する情報を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ効果の高い製品に関する情報を広報紙に掲載 (7 月) 3 行政が率先して地球温暖化対策に取り組むため、市職員の意識啓発を図り、公共施設の省エネ化に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・県内の公共施設では初めて ZEB 基準を達成した施設 (生活環境課事務所) を建設 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・クールビズ（5月～10月）・ウォームビズ（11月～3月）を実施
	4 歩道を有した都市計画道路の整備を進めた。（柞田川右岸線の用地買収・道路改良工事、県による栄町七間橋線の供用開始）
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 引き続き、ZEH住宅やV2H、太陽光発電設備、蓄電池を新築又は購入する市民に対して、設置費用の一部を補助する。 2 本庁舎への太陽光発電設備を導入するとともに、公用車を電気自動車へ買い替える。 3 EVの普及促進に向けて、民間事業者と連携して市民向けのEV充電器を公共施設に設置する。 4 市民や事業者向けの市の脱炭素への取組に関するチラシを作成する。 5 小学生を対象とした環境学習会を開催し、省エネルギーや再生可能エネルギーに関する理解を深める。 6 市民や事業者が省エネルギーに取り組みやすいよう、国や県が実施する省エネ診断制度や補助制度を取りまとめたホームページを作成する。 7 公共施設の省エネ化について、引き続き観音寺市エコオフィス実行計画に基づき、市職員に対して運用改善や設備導入を徹底する。 8 引き続き、都市計画道路の整備を進める。

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
市有施設の太陽光発電システム導入量	144 kW	168kW	735 kW	
公用車の電気自動車導入台数	0台	0台	4台	
市有施設のLED照明導入率	14.0% (2019年度)	14.7% (2022年度)	35.0%	
現況と対策	<p>市内でエネルギー消費量が多い公共施設を所有する行政が、市民や事業者に対して地球温暖化の防止に向け率先した行動を行うことは重要である。</p> <p>市有施設の太陽光発電システムは、主に教育的側面から学校を中心に設置されているが、今後、施設の屋根など未利用スペースの活用とし、費用対効果や建物の耐震性などを考慮して計画的な設置に努める必要がある。</p> <p>また、照明のLED化についても、2027年までに蛍光灯の製造・輸出入の廃止を踏まえ、計画的な照明器具の更新が必要となっている。</p>			
進捗状況	環境省の補助事業を活用し、築20年以内の施設10か所を対象とした太陽光発電導入可能性調査を実施した。			
今後の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 本庁舎への太陽光発電設備を導入するとともに、公用車を電気自動車へ買い替える。 2 施設管理者に対して、蛍光灯からLEDへの切り替えを呼びかける。 			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
防災関連出前講座開催数	3回	35回	20回	
現況と対策	<p>現在進みつつある気象変動によって生じるとされている、豪雨災害による影響について国や県などによる情報を的確に市民に伝達し、市民の防災に関する意識向上を図ることは地球温暖化対策と合わせて重要な取組である。</p> <p>市では、ハザードマップの整備など災害に関する必要な情報を収集するとともに、総合防災マップの見直し・配布、出前講座や広報誌などを活用し、市民に対して防災に関する啓発を行う。</p>			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合防災マップ（2023保存版）を全戸配布した。 2 市民や事業者に対し出前講座を実施した。 3 自治会や地区の計画する防災訓練を支援した。 			
今後の取組	<p>引き続き市民や事業者に対し出前講座、防災訓練支援を実施するとともに、指定緊急避難場所や指定避難所の見直しや備蓄資材の確保等を行い、市民への防災意識を醸成し、豪雨災害に備える。</p>			

(3) 重点戦略3 (かんおんじの人をまもりそだてる) について

【達成目標を実現するための活動目標】

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
環境学習参加者数	73人/年	551人/年	400人/年	
現況と対策	<p>本市の豊かな環境を守り育てる取組を波及させるためには、市民や事業者に環境学習や環境イベントの開催などの機会を通して環境に配慮した活動を促進するとともに、環境保全活動をけん引するリーダーとなる人材の育成が必要である。</p> <p>観音寺市では、香川県と連携して市民や事業者を対象とした環境学習・イベントの充実を図っている。</p>			
進捗状況	<p>市民を対象としたイベントや講座などを開催し、市の環境に対する理解促進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわく体験教室（ウミホテル観察会）（8月） 22人 ・県主催「ウミホテル観察講座」（8月） 29人 ・市民フォーラム（8月） 120人 ・市の環境関連出前講座（5回開催） 110人 など 			
今後の取組	引き続き、香川県とも連携しながら、市民向けの講座を開催する。			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
環境推進員の養成数 (累積)	13人	9人	17人	
現況と対策	<p>市民や事業者の環境保全活動を促進する新たなリーダーの育成に努めるため、市内で環境保全活動を積極的に実施し、活動実績が豊富な環境推進員を養成する必要がある。</p> <p>観音寺市の環境推進員は、2023年度現在で9人であり、担い手不足が課題となっている。</p>			
進捗状況	<p>環境推進員の指定状況は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香川県水環境保全推進員 4人 ・香川県環境監視員 4人 ・香川県地球温暖化防止活動推進員 1人 			
今後の取組	清掃活動等、環境保全活動に熱心に取り組む市民が推進員になってもらえるよう、イベントの実施や表彰制度の活用を検討する。			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
エコ・アダプトロード 団体数	43 団体	44 団体	46 団体	
現況と対策	<p>環境保全活動を行う市民や団体が活動しやすい仕組みづくりを構築することは、本市の環境を守り育てる人づくりに必要な取組である。</p> <p>エコ・アダプトロードは、市民団体や企業が市内の道路などで清掃活動を行う取組であり、市を代表する環境保全活動となっている。</p> <p>行政として、市民や団体の活動が継続的に行われるよう支援する必要がある。</p>			
進捗状況	登録団体に対して、ごみ袋や道具類の支給を行うとともに、回収したごみを処分した。			
今後の取組	登録団体への支援を継続的に行うとともに、新規登録団体の増加に向けて啓発に努める。			

指標	基準値 (2021年度)	現状値 (2023年度)	目標値 (2027年度)	評価
香川県認定環境配慮 モデル製品数（累積）	1 製品	3 製品	3 製品	
現況と対策	<p>本市が有する豊かな環境を将来へ継承していくためには、環境に配慮した行動を実践する市民や事業者の存在が欠かせない。</p> <p>香川県では、環境配慮の観点から他の模範となるリサイクル製品や事業所を「モデル」として認定し、リサイクル製品の普及と事業者の環境配慮行動の促進を図る「香川県環境配慮モデル認定制度」を設けている。</p> <p>本制度を活用して、市内事業者の環境に配慮した経営を促進するよう努める。</p> <p>香川県認定環境配慮モデル製品登録状況（2023年度末現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルウエス「T'sワイパー」（有限会社田代商店） ・汚泥発酵肥料「汚泥ゆうき」（株式会社パブリック） ・汚泥発酵肥料「リ・グリーン」（株式会社パブリック） 			
進捗状況	香川県と連携し、リサイクル製品を製造する市内事業者の登録に努めた。			
今後の取組	引き続き、香川県と連携して本制度の啓発に努めるとともに、該当企業へ登録を促す。			

指標	基準値 (2021 年度)	現状値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)	評価
地域移輸出入収支額 ※公表データが更新された 場合に採用	-305 億円 (2018 年度)	-217 億円 (2020 年度)	改善を図る	
現況と対策	市環境基本計画では、国の第五次環境基本計画に掲げられた「地域循環共生圏の創造」の考え方を反映させ、地域移輸出入収支額の改善を図ることを目標に掲げている。移輸出入収支額を改善するためには、収支額のほとんどがエネルギーを購入する代金であることから、地域資源である太陽エネルギーを積極的に活用したエネルギーの地産地消を促進することが効果的な対策であり、新たな環境ビジネスの創出にもつなげる取組である。			
進捗状況	住宅の再エネ化を推進するため、ZEH 住宅や V2H、太陽光発電システム、蓄電池の設置者に対して、設置費の一部を補助し、電力の自家消費を促した。			
今後の取組	エネルギーの地産地消に向けて、太陽光発電施設の導入を促進するとともに、市内にある既設の太陽光発電施設の活用方法について引き続き検討する。			



発行 観音寺市
編集 観音寺市市民部生活環境課
住所 香川県観音寺市南町四丁目2番10号
TEL 0875-25-2698
FAX 0875-25-2867